

# ふるさと歴史アラカルト

## 東沢瀉と学ぶということ

※1 ひがしなくしや  
東沢瀉は幕末に必死組を結成したことや、明治時代に塾を開き指導したことなどで知られています。今回は、彼の学ぶことへの姿勢について紹介します。

沢瀉は幼い頃は母親が心配するほどのわんぱく少年でしたが、成長すると学校の先生に「博士」と言わしめるほどの秀才となりました。彼は学校だけでなく、軍書を読むサークルを結成したり、禅宗の教学に興味を抱いて禅寺に出入りしたりします。

その後、藩から許可を得て江戸遊学に出ます。江戸では多くの儒学者たちと交流を持つことができ、これが沢瀉の学問にとって大きな転機となりました。その学問は実際の社会に即して行動することを目指すもので、個人の修養にとどまらない実践的な学びを求めるものでした。

岩国に帰国した後、沢瀉は家督を継ぎ、藩士としての職務に就きます。元治元(1864)年には、朝廷に直訴するため上京する藩主・吉川経幹との同

行を命じられました。沢瀉自身は、ともすれば朝敵になりかねないこの上京に反対だったため、任務を降り、経幹の出発を引き止めようとしますが、阻止できず、自ら家督を譲り隠居します。

しかし慶応2(1866)年の必死組結成時、若者扇動の罪に問われ、流刑に処されます。その間は書物を読んだり、訪ねてきた者に教えたりしていました。

罪が許された後、明治3(1870)年に保津に塾を開きます。塾生に「文字にこだわらず自分の心で考えるように」と言ったように、彼の教授法は書籍をうのみにせず、自身で考えることを求めるものでした。かといって沢瀉は、書籍を軽視したわけではありませぬ。彼は多くの書籍を写し取りながら、自分で考えて必要に応じて書籍を利用するべきだと教えました。

このような先人の姿勢は、時代を越えて現代に生きる私たちでも、参考となる点が多いのではないのでしょうか。

### いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452  
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

3月3日(日)まで、企画展「明治150年記念 実践的教育者 東沢瀉」を開催しています。

※1 明治2年以前は沢瀉の名(号)を用いていませんが、分かりやすさを優先して沢瀉としています  
※2 岩国の旧来的な軍制を改め、攘夷を遂行するために結成された組。後の諸隊の一つ、精義隊となる



▶ 東沢瀉による自画像

## 岩国市 人口・世帯

人口 135,308人 【前月比 - 98人】 男性 64,219人 女性 71,089人

世帯 65,911世帯 【前月比 - 56世帯】 ※外国人人口を含む(平成31年1月1日現在)

交通事故発生件数 12月分事故件数 24件(336件) 死者数 1人(7人) 傷者数 25人(401人)

※高速道路発生分を除く

※( )内は平成30年累計

### 広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。 **テレホンサービス ☎231234**

### 目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、広報戦略課広報班へ ☎295016 FAX213337